

宗像市議会

議長 花田 鷹人 様

予算第1特別委員会

委員長 伊達 正信

委員会審査報告書

本委員会に付託された事件の審査結果を報告します。

記

第59号議案 令和2年度宗像市一般会計補正予算（第5号）について

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1億4,540万2千円を増額し、467億4,778万2千円とする。

【審査内容】

明らかになった主な事項は次のとおり。

新型コロナウイルス感染症対策として、学校の休業に伴う影響への対応、高齢者施設等への支援に係る経費等を計上する。

1 学校休業・再開に伴う影響への対応（4,111万8千円）

放課後等デイサービス事業の利用増加に伴い障害者介護給付費を増額する。また、学童保育所の開所時間延長、利用者負担金の返金等に伴う指定管理委託料の増加により学童保育所管理運営費を増額する。子ども相談事業費を増額し、子どもの権利相談員を1人増員する。学校の再開に当たり、児童生徒の心のケアの充実を図る。

2 公共施設等における感染症対策（4,051万1千円）

高齢者施設等特別支援金給付事業費3,030万8千円を新設し、市内の高齢者、障がい者施設等における感染防止策に対し1施設10万円の支援金を給付する。保健一般事務費を増額し、市立学校や市内の公共施設、医療機関等に非接触式体温計、消毒薬を配布する。

3 その他の支出（7,185万4千円）

宗像地区急患センターの受診件数減少による診療報酬等収入の不足及び福津消防署の建て替えに伴い宗像地区事務組合負担金を増額する。

4 主な財源

歳出において、三役、議員の人件費等808万1千円を減額し、学校等に配布する体温計、消毒薬の購入費用に充てる。その他国県支出金に加え、感染症対策に要する経費についてはふるさと基金を、宗像地区事務組合負担金については財政調整基金をそれぞれ繰り入れ、充当する。

5 今後の財政運営等

本補正により基金残高は財政調整基金46.3億円、ふるさと基金7.7億円となる。財政調整基金はこれまで約7億円を取崩しているが、今後、国の補正予算等に伴い財源を入れ替える。財政運営においては、感染症対策に係る臨時的経費を明確にし、税収等に及ぼす影響も含め経常経費とのバランスを年度間で調整するとともに、財政安定化プランの修正等に着手する。

【意見】

(賛成意見)

- ・感染症対策の影響により、学校では予想外の経費が発生しており、宿題等の配付に係る用紙代の予算については、年間の見通しが立たなくなっている。市民体育館等の公共施設では、室内の換気対策等も求められており、これまで認識されていなかった課題についても、今後は柔軟に対応してほしい。
- ・子どもの権利相談員の増員は評価するが、電話が苦手な子どもや学校に行けない子ども、高校生などがより相談しやすい方法として、メールやLINE等の活用も必要である。また、緊急事態宣言期間中も感染のリスクと闘いながら学童保育所を継続して開所したことは評価するが、利用を希望する人には様々な理由があり、それぞれに寄り添った対応が必要であると考え。
- ・三役の給与減額という市長の身を切る改革、これまで財政調整基金を維持し、将来的な財政設計にも考えを巡らせている職員の努力を評価する。今回は高齢者や介護、障がい者施設への支援がなされているが、医療、介護の従事者等のエッセンシャル・ワーカーへの支援が残されており、感染症対策に貢献している人々が安心して仕事を継続できる予算措置を期待する。
- ・これまでの補正予算により、困窮する事業者や市民に対しタイムリーな支援が届けられており、喜びの声を聞いている。市長をはじめ執行部の努力を高く評価する。

【審査結果】

委員会は、全員賛成で原案のとおり可決した。